

(別記第3号様式)

アドバイザー派遣要請書

西暦 2024年8月21日

一般社団法人京都知恵産業創造の森 理事長 様

中小ものづくりDX推進アドバイザー派遣事業によるアドバイザーの派遣を以下のとおり要請いたします。
今回の要請は、従前から継続して助言を受けているアドバイザーに対して、同様の分野に関する診断助言を要請するものではありません。

企業名					
所在地	〒				
派遣を希望する住所	(所在地以外での派遣を希望する場合は、ご記入ください) 京都府宇治市				
代表者名		電話			
	(加)				
担当者の役職、氏名					
取締役 製造部部长					
業 種	(なるべく詳しくご記入下さい) 食品製造業	資本金	5000万円 未満	従業員数	301人以上
現在行っている事業の概要					
工場にて製造、店舗にて小売販売やカフェなどを経営。 工場において年間約10億円の生産を行い、これ以外に約7億円の外部委託生産がある。 2022年に、食品安全システム／FSSC22000 認証を取得。					

1 派遣申請の内容・理由			
(1) 現状の課題や問題点について (具体的な内容を明確に) 生産拠点として新工場を設立し、10年間の製造の中で、自社なりの生産管理や品質管理、製造管理に取り組んできたが十分なレベルになく、改善が必要と考えている。 特に、近年の旺盛な需要の伸びに対して、生産能力が不足しており、供給責任を果たせていない。生産体制の強化は当社の最重要経営課題であり、品質確保のため将来的には外注委託生産の内製化も進めたい。 数年以内に新工場確保の計画もあるが、その前に、ソフト、ハード両面のものづくり力を強化して、生産性の向上を実現するための、重要課題の抽出とその改善に取り組みたい。 我々が認識している製造部の問題点は以下である。			
大項目	重要度	問題点	
人	△	作業者にとって身体的負担が大きい作業がある。	
	△	デジタル化の知識が不足している	
	○	現場作業を管理監督できる人材が不足	
	◎	生産管理の基本的な知識ががわかっていない。	
	◎	現場作業が属人化している。技能が必要な仕事が引き継げない。	
	△	作業が遅くて定時に仕事を完了できない人がいる	
	作業	◎	作業動線を配慮したレイアウトになっていない。
◎		現場作業を改善する力が不足しており、作業に無駄・無理・ムラがある	
◎		工程や資材置き場などの5Sができておらず、作業ロスや無駄が多い	
○		現場教育をするためのツールや学習機会が少ない	
△		現場内で共有すべき情報が多いが、しっかり共有できていない	
△		改善や管理を行うための間接時間の確保ができていない	
◎		作業時間の配分など作業管理の基本が理解できていない	
システム		◎	現場のデータの収集・分析・活用ができていない
		○	マニュアルや記録のデジタル化ができていない。ペーパーレスが遅れている。
		◎	人材育成のシステムが構築できていない
	△	工程間の生産同期化や能力バランスが取れておらず手待ちが発生している	
	△	手待ちロス時間や隙間時間を活用できていない	
	△	繁忙期と閑散期の生産量の差が大きい	
	◎	最適な生産計画の作成方法が確立できていない。飛び込み生産がある。情報不足。	
(2) 支援を求める内容 (アドバイザーに支援を求める内容を記載し、下記にはその詳細を記載) 弊社工場の中長期的な視点に立った生産管理と生産体制の目標とする姿を明確にして、これを構築するための課題抽出と具体的な解決取組の支援をお願いしたい。専門家の助言という範囲に収まらず、一定期間、しっかりと製造現場を見ていただいて、具体的に入りこんでの把握・分析・改善の支援をお願いしたい。 1) 生産管理の強化 ①店舗やECサイト販売の情報を活用した、需要予測精度の向上と生産計画へ反映 ②当社の多品種少量の生産に対応した、ロスのない生産計画作成 ③生産状況の見える化と、自律的に遅れをカバーできる生産管理の仕組みの構築 2) 製造現場の生産性の向上 ①データ取得の負荷の少ない作業工数・設備稼働率の把握方法 ②無駄な作業ロスの顕在化と具体的な生産性向上策 ③生産性の高い設備配置や動線の少ないレイアウトへの改善 ④生産現場が自律的に改善していくための教育システムや5Sなど小集団活動の構築 ⑤原価管理実践による原価改善の仕組みづくり			
支援項目	目標及び課題に対し自社で主体的に取り組んでいる内容 ※あれば記載ください	左記取組を行う中で支援を求める内容	
他部門と連携した生産管理の強化	EXCELシートによる生産管理。販売店舗ではPOSレジ、モーションボードによりデータのデジタル化	上記1) ①～③	
製造現場の生産性の向上	食品安全システム／FSSC22000 に基づく食品衛生管理、工程管理。監督者主体の作業改善。	上記2) ①～⑤	

優先支援いただきたい内容（各課）

1課

- ①生産管理（数値管理）にて生産に関する必要な数値を把握すること
上記の数値をもとに作業工程の見直しを実施
- ②生産、作業工程改善による生産性の向上を図る

2課

生産管理

- ①各製品生産の目標数値設定の方法（考え方）を確立したい
- ②出来高グラフの活用 →生産進捗をモニタリングし、目標設定に対する意思決定、
指示をできるスタッフを増員したい、結果に対するフィードバック
- ③人時生産額の適切な算出方法確立 →日産の生産内容が異なり比較しづらい

生産性向上

- ①上記の生産管理における数値目標達成のための作業工程改善やスペース有効活用
できるレイアウト改善、柔軟な発想、アイデアでもって改善力を上げたい
- ②仕込み作業の属人化対策 →マニュアル化、機械化、工程簡素化

3課

生産管理

- ①日報にて生産個数、各工程の作業時間を記録しているが活用できていない
- ②日々の生産が遅れているのか、進んでいるのかは長年の経験者が判断している
- ③現在の状況を知るために人時生産額の算出など日々の生産業務が見える化したい
- ④データ取りの方法と活用の仕方を知りたい

生産性向上

具体的な削減目標を設定して生産工程の改善する

(3) アドバイザーの指導に期待する効果(成果)
(数値目標など明確に)

支援を通じて、前述の課題解決取組により、支援完了時点で以下を実現し、2-3年後に計画している新工場の生産体制の基礎を築く。

1) 生産管理の強化

- ・中長期的に目指す生産管理体制、しくみの明確化
- ・材料、半製品、製品在庫の20%削減の道筋を作る
- ・月初立案生産計画の100%遂行を目指す

2) 製造現場の生産性向上

- ・生産性向上20%（生産能力20%アップ）達成の道筋を作る
- ・外注委託作業の一部内製化の道筋を明確にする
- ・5S活動の実践、定着

・					
	営業、販売支援	○	生産管理	○	生産技術
	品質管理	○	人材育成	○	IT・Web
営業、販売支援：顧客管理、売上管理、業務フロー改善 生産管理：物流改革・在庫管理、業務フロー改善、原価構築 生産技術：生産性向上(設備・工程の改善、作業の標準化)、コストダウン 品質管理：品質保証・品質管理、食品衛生管理 人材育成：社員教育・マニュアル整備 IT・Web：デジタル化、システム化、社内情報共有					

2 アドバイザーの派遣を希望する時期及び回数

※本項目は貴社がアドバイザー訪問に対応できる日について記載ください

(1) 4 時間/回 × 2～3 回/週 (または月)

(2) 繁忙期等、対応不可の時期があれば、 *

(3) 曜日に制約があれば、 曜日

※派遣は、従事時間の上限は、232.5時間とする。(30日×7.75時間)
ただし、法人が特に認める場合はこの限りではない。

3 過去に京都府の支援を受けたことがある場合は、その時期及び内容

※ 本様式の提出後にDX推進アドバイザーとの調整等により、(3) 支援を求める内容等に変更を生じた場合は、その都度再提出のこと